

第2章 まちづくり重点戦略

「将来都市像」の実現に向けて、多様な地域資源を積極的にいかしながら、次の政策を「まちづくり重点戦略」として位置づけ、重点的に進めていきます。

場（空間）の力を育む

豊かな学びとにぎわいを創出する空間づくりを行います。

学びの豊かな空間をつくる（“上越学”の確立）

生きる力、まちづくり、なりわいづくりのための学びの環境づくり

生きがいとライフワーク、上越市への愛着と誇りにつながる生涯学習の推進

にぎわい豊かな空間をつくる（都市としての“陣形”の強化）

中心市街地や各地区の中心地の活性化、公共交通の活性化

歩いて暮らせるにぎわいあるまちづくり

人と人のつながりを育む

人と人との交流や連携により生まれる力をいかしたまちづくりを進めます。

コミュニティでの交流を育む（“ご近所の底力”の向上）

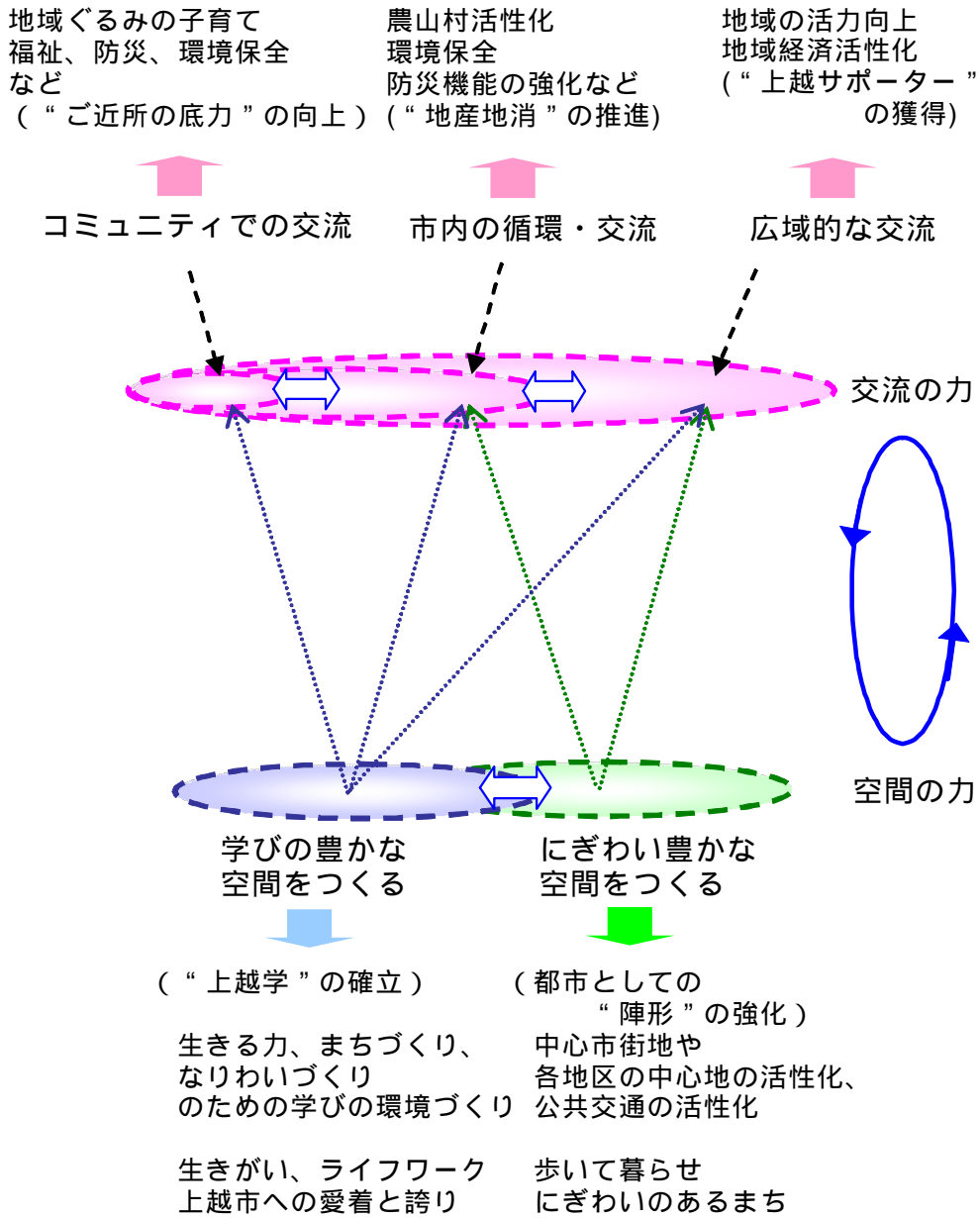
地域ぐるみの子育て、福祉、防災、環境保全など

市内の循環・交流を育む（“地産地消”の推進）

農山村活性化や環境保全、防災機能の強化など

広域的な交流を育む（“上越サポーター”の獲得）

地域の活力向上や地域経済活性化



各戦略は相互に関連をもっており、相乗効果をもたらす。
 これらを切り口として重点プロジェクトを検討する。
 最終的には、上越らしいライフスタイルの構築につながる。

重点戦略1 学びの豊かな空間をつくる（“上越学”の確立）

上越市内に存在する多様な地域資源を活用し、生きるために必要な食や環境などに関する知識、思いやりの心やたくましく生きる心、人との接し方に関する知識、上越市の魅力や個性・課題について学ぶまちづくりに関する知識、発想力や専門性を強化するなりわいを生み出す知識などについて、気軽に楽しみながらもしくは潜在的に学べるよう、テーマ設定やカリキュラムづくり、空間づくりを行います。

このことによって、一人でも多くの人々がこれからの時代を生きていくために必要な力やライフワークを習得しつつ、地域資源との関わりを通じて地元への愛着と誇りを育むことのできるまちを目指します。

期待される効果（ はプロジェクトの主要目的 ・は結果として達成される目的であり主目的としない）

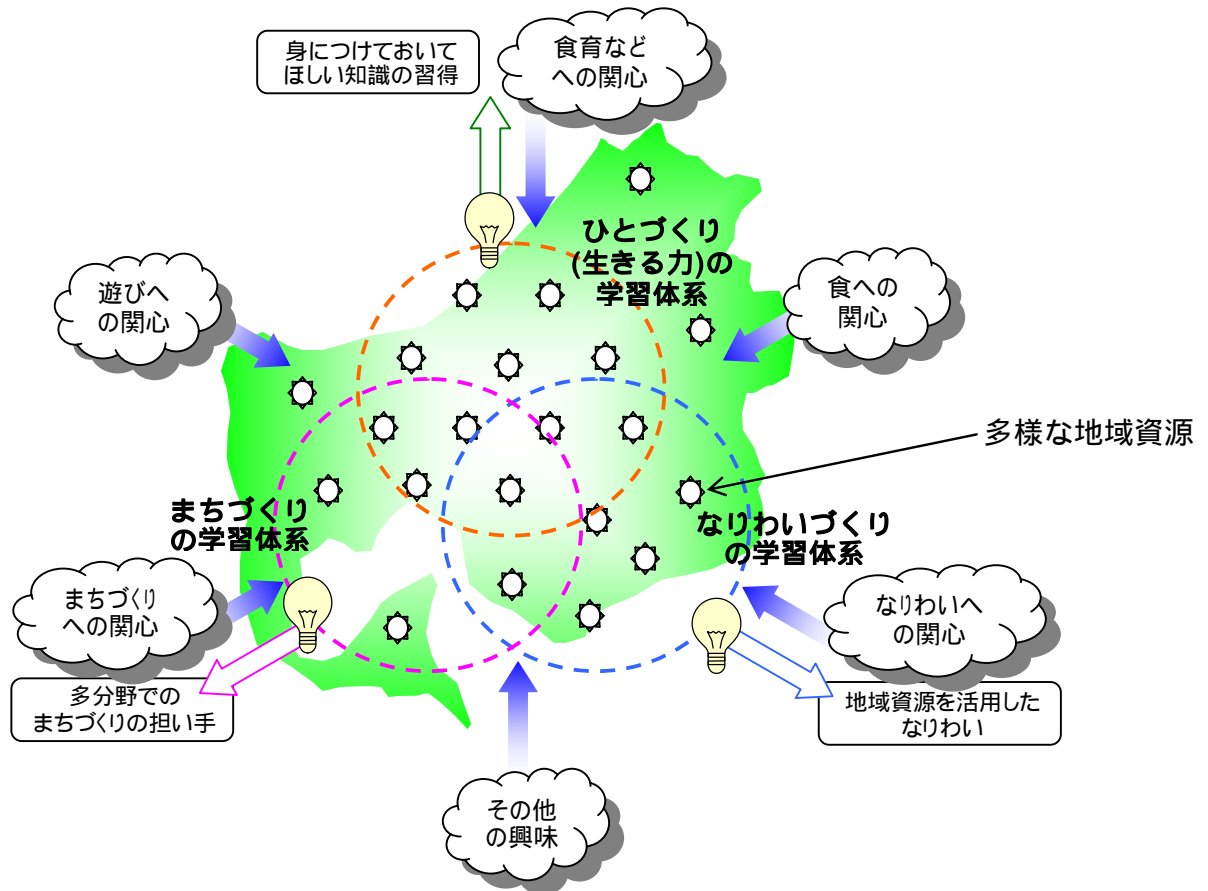
- 生きぬくために必要な力の習得
- 生きがい・健康づくり
- 地域文化の再認識
- ・ まちづくりを担う人材の発掘と育成
- ・ 学びを通じた交流促進

基本方針（留意点）

地域資源を学びのテーマやレベルにあわせて体系化します。

学びに対して直接的に興味を持たない人々であっても、気軽さ、親しみ、楽しさをもって関わられるようなテーマ設定や、五感に訴求することによる潜在的な学習効果を考慮するなど、対象者の裾野の拡大に努めます。

イメージ図



<参考> 重点プロジェクトの例

現段階では重点戦略の内容をイメージいただくための一例として記載しています。今後精査を行い、基本計画において記載します。

- (1) 謙信KIDSスクールプロジェクト（既存事業の名称を使用）
 - ・ 自然環境や歴史的資源、伝統文化などを素材とした子どもたちの学習の場づくり
 - ・ 遊びを通じたまちづくり学習や職業教育の場づくり（こども向けの模擬都市）

- (2) 上越の楽校（まなびランド上越）プロジェクト
 - ・ 雪国文化、海洋汚染等、上越固有のテーマに基づく企画展示
（市内全域で同時期に共通のテーマをもって実施）
 - ・ 地元の食材に関するイベント
 - ・ 景観コンテスト（潜在的な学習）
 - ・ インフラに関する説明を記載した看板設置
 - ・ 官学連携によるカリキュラムの作成

重点戦略2 にぎわい豊かな空間をつくる（都市としての“陣形”の強化）

市内各地区が個性をいかし、歩いて楽しくにぎわいがある求心力を持ったまちの空間を創出します。また、それらを有機的に結んだ交通網をまちの骨格と位置づけ、市内を円滑に移動できる仕組みを構築します。

このことによって、利便性の高い公共交通ネットワークが確保され、市内の各地区を円滑に移動・交流できる状態を確保するとともに、歩行者の密度が高いにぎわいのある空間が創出され、各地区の個性が育まれる状態、すなわち持続可能な都市構造への再構築を目指します。

期待される効果

各地区のにぎわいの場（魅力的な公共空間）の創出

都市間競争に打ち勝つための、各地区の個性の追求と市全体の魅力向上

来訪者や市内の交通弱者の移動手段の確保による交流促進

- ・ まち歩きの促進による地域の再発見
- ・ 自動車利用の減少による生活習慣病予防や環境負荷の削減
- ・ 効果的な防災や減災と災害時対応の円滑化
- ・ まちづくりの拠点づくり
- ・ 行政コストの削減

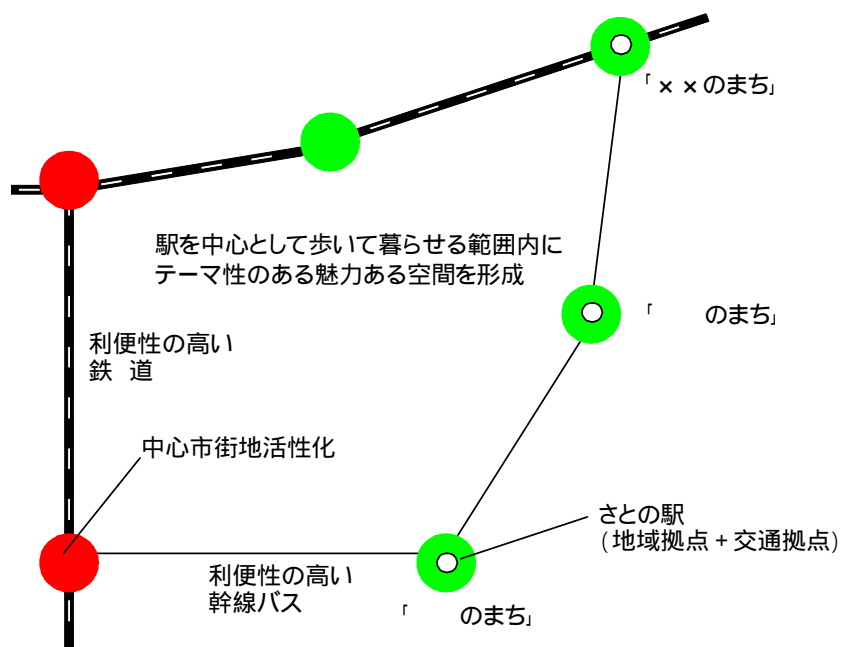
基本方針（留意点）

地域の拠点と交通の拠点の融合、公共交通の利便性向上、公共交通を利用した魅力的なライフスタイルの提示を一体的に実施することで好循環を形成します。

マイカー社会を否定するものではありません。マイカー中心社会の中で、歩くことや公共交通を利用することの効用を最大限発揮することが目的であり、結果として公共交通や歩ける空間がマイカー社会と共存できる姿を目指します。

「土地利用構想」における都市構造のベースとなる取組としても位置づけます。

イメージ図



<参考>重点プロジェクトの例

(1) 中心市街地活性化プロジェクト

市内外から多様な人々が集まりにぎわう上越市のかおとしての中心市街地を再興します。

- ・ 中心市街地におけるにぎわい空間の創出（まちのかおづくり）
集客施設の立地誘導、歴史的建造物の活用、集客イベントの実施など
- ・ 利便性の高い市街地公共交通の確立
路線・ダイヤの見直し、駅としての拠点性向上（アクセス向上）
公共交通の利用促進

(2) 「地域の茶の間（さとの駅）」プロジェクト

各地区の個性を醸し出し、地区の人々が気軽に集うことのできる“地域の茶の間”としての中心地再興を目指します。

- ・ 各地区の中心部におけるにぎわい空間の創出
- ・ 地域の集客・交流機能と駅の融合（「さとの駅」の整備）
- ・ 幹線公共交通ネットワークの再構築（一定サービスレベルを担保した鉄道・幹線バス）
- ・ コミュニティレベルでの公共交通ネットワークの確立（福祉有償運送など）

重点戦略3 コミュニティでの交流を育む（“ご近所の底力”の向上）

地域コミュニティの中で、一人一人が抱える子育てや福祉、防災、環境などの課題を地域全体の課題としてとらえ、多様な人々が集い、共に刺激を受け、知恵を出し合い、力をあわせることによって、課題解決や生きがいづくり、理想実現に寄与できる場や仕組みを創出します。

このことによって、地域の問題解決に向けて一人一人の持つ能力が発揮され、そのことを生きがいに感じる人々が増加することで、やさしさと力強さを兼ね備えたコミュニティが増える状態を目指します。

期待される効果

- 子育て環境の向上（担い手の確保、学校以外での知識の習得など）
- 高齢者等の生きがいづくり
- 災害や犯罪に打ち勝つ地域力づくり
- ・ 思いやりの心や公共心の醸成、共助の拡大

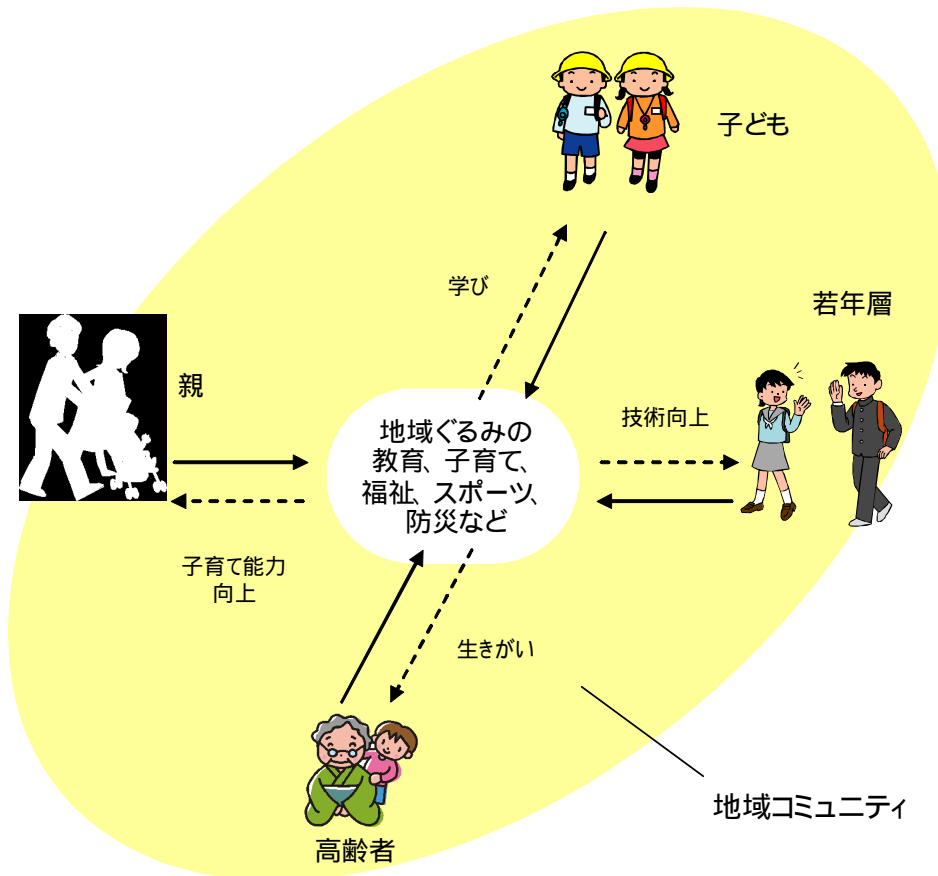
基本方針（留意点）

個人・民間・行政よりも、地域コミュニティで取り組むことが効率的・効果的なテーマについて優先的に検討します。

最終的には個人や家庭の力が高まり、それを基調としながらそれぞれが助け合い、高めあう関係を目指します。

上記の取組を支え、促進するシステムを検討します（機会の平等と頑張る地域の支援、窓口・経済的支援等の一元化 など）

イメージ図



<参考>重点プロジェクトの例

(1) 学校を中心としたコミュニティプロジェクト

- ・ 校庭と公園の融合
- ・ コミュニティ内での3Rの推進
(学校給食、生ごみの堆肥化、農作業の連携/不用品の学校での活用 など)
- ・ 物品やエコマネーなどを媒体としたコミュニティ・バンク

(2) 地域ぐるみの課題解決・地域のお宝プロジェクト

- ・ 子育てなどに関する意見交換、悩み相談の場づくり(ふれあいサロン)
- ・ 福祉機能と子育て機能の融合(保育園と福祉施設の併設、おじいちゃん先生の採用など)
- ・ 身近で学習効果のあるこどもの遊び場づくり
- ・ 歴史・文化的資源を核にした景観づくり、イベントの実施
- ・ 地域学習・活動アドバイザー制度の充実
- ・ がんばる地域、地域発の事業提案への支援
(構造改革特区や地域再生事業のコミュニティ版)

重点戦略4 市内の循環・交流を育む（“地産地消”の推進）

地域経済、環境保全、教育、福祉などの観点から農山村部の価値を積極的に引き出し、農山村部と市街地がそれぞれを支えあい、高めあう関係となるような市内の人・ものの交流を進め、自然や農に親しむ魅力的なライフスタイルを創出します。

このことによって、市内の一体性（市街地あつての農山村・農山村あつての市街地であること）を再認識し、自然体験や農作業を楽しみやすいライフスタイルの一部として取り入れ、実践する住民が増加する姿を目指します。

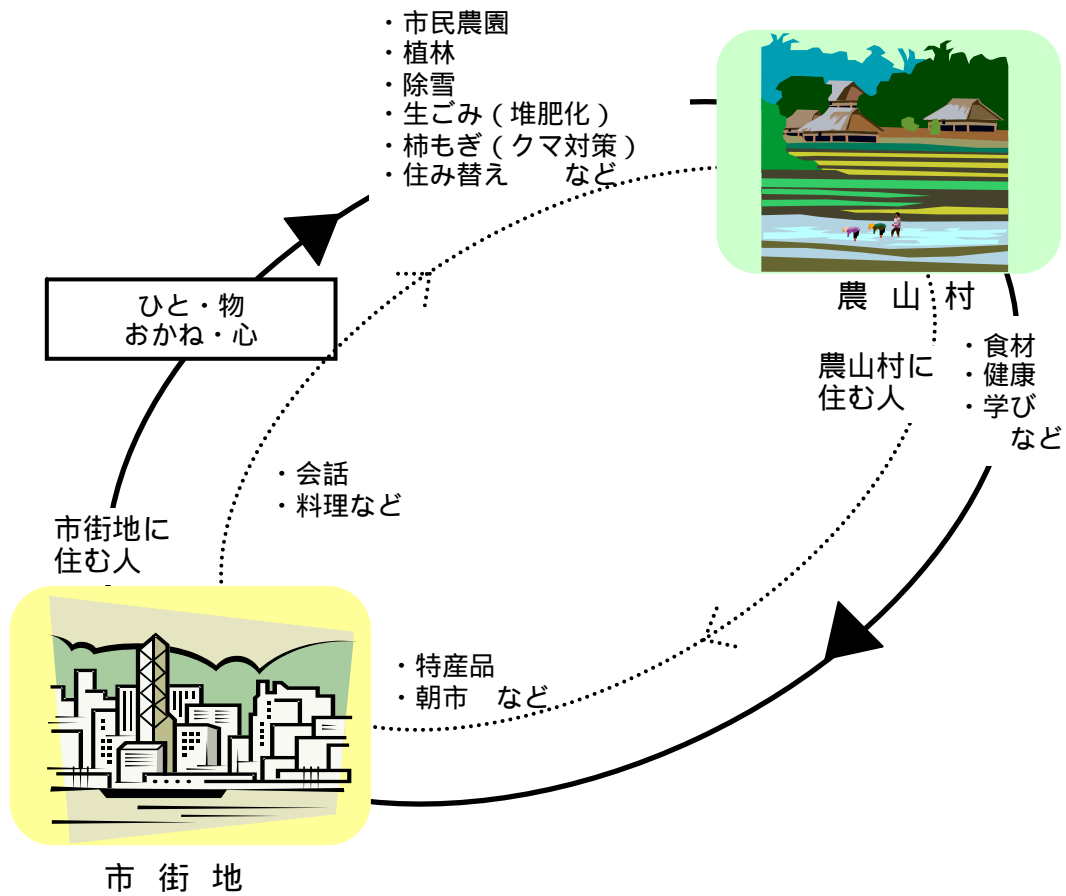
期待される効果

- 市街地と農山村がもつ機能の相互理解
- 地域内の産業連関強化による地域経済活性化
- ・ 物質的な循環を強めることによる環境負荷の削減
- ・ 中山間地の集落や農地を支える担い手確保
- ・ 里山の手入れによる防災機能等の向上

基本方針（留意点）

市街地や農山村の相互補完関係や付加価値の創出を考慮した結果、循環や交流が高まる状態を目指します。

イメージ図



<参考> 重点プロジェクトの例

(1) ものの循環プロジェクト

- ・ 朝市のPR、特産品開発、6次産業化などによる地産地消（商）
- ・ 生ごみの堆肥化・飼料化
- ・ 市民農園の整備

(2) 人の循環プロジェクト

- ・ 棚田・植林・除雪サポーター
- ・ クマ対策を兼ねた柿もぎツアー
- ・ （一定期間の）住居の交換

重点戦略5 広域的な交流を育む（“上越サポーター”の獲得）

上越市の訪問者が市民や他の訪問者と出会うきっかけを創出し、その出会いが上越への印象を深め、更なる関係へと発展するような誠意あるおもてなしを行います。

対象者は、観光客にとどまらず学生やサラリーマン、帰省客などの多様な訪問者を想定し、情報交流・交流・二地域居住・定住の連携や、周辺都市の連携などを視野に入れた取組を進めます。

このことによって、上越のことを好きな上越ファンや、上越のまちづくりを様々な側面から支援してくれる人々（上越サポーター）が増加するとともに、交流の通年化により、観光・交流関連産業が活性化する状態を目指します。

期待される効果

地域の活力向上（元気の源）

まちづくりの支援者獲得（知恵・労力の源、経済的支援）

（地域外からの）外貨獲得による地域経済活性化

基本方針（留意点）

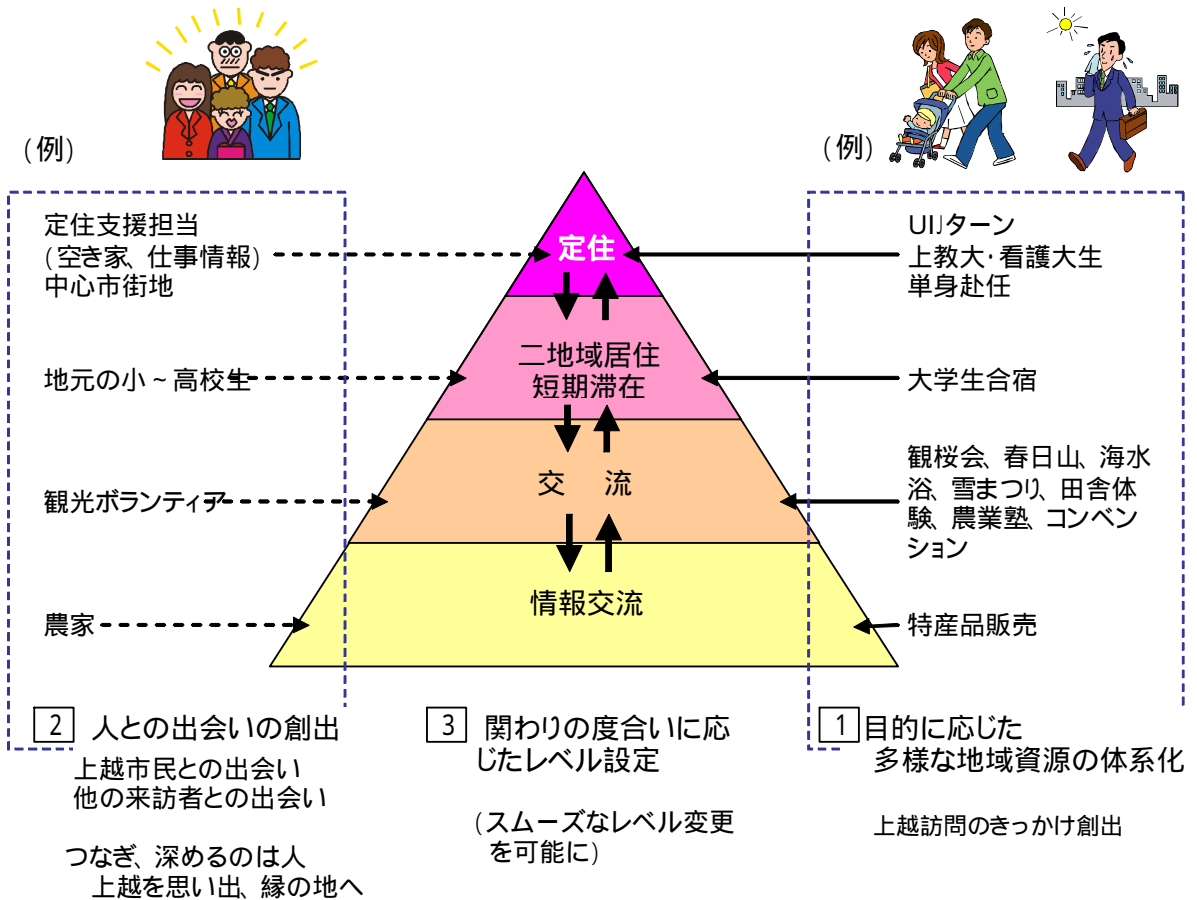
既存の集客機能を活用しながら、上越市の他の魅力をアピールしたり、多様な地域資源を組み合わせることにより、滞在時間の増加を目指します。

上越への思いをつなぎ深めるのは人との出会いであるとの認識から、来訪者と他の来訪者、上越市民との出会いの創出に努めます。

あくまでも多様な人口の獲得を目指すものであるため、定住人口の拡大に固執せず、重層的な取組を進めます。

外貨は満足度の対価として得られるものであり、継続的な交流が図られること（リピーター化）に力点をおきます。

イメージ図



<参考>重点プロジェクトの例

(1) ほんもの上越体験プロジェクト

- ・ 都市部の住民を対象とした田舎体験、ワーキングホリデー
- ・ 就農希望者向けの農業塾
- ・ 雪国文化をテーマにしたイベントの実施
- ・ 新規定住の支援

(2) 都市間交流・連携プロジェクト

- ・ 都市部の大学生、市内大学生と地域住民の交流
- ・ 北信越都市間の観光および都市機能連携
- ・ 国内外の姉妹都市交流